

NEWS RELEASE

2008年5月12日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2008年3月期 決算概要

【2007年度の概況】

国内の建設機械市場は、公共工事が依然として減少している事に加え、上期途中からの建築確認の厳格化の影響もあり住宅関連工事の停滞が顕著となりました。一方、住宅関連以外の民間設備投資は比較的堅調に推移し、また中古車の輸出による国内ストック台数の減少を背景とした更新需要の伸長がみられました。この結果、伸び率は鈍化したものの油圧ショベルの販売は好調に推移しました。

鋼材をはじめとする原材料、部品の高騰などの影響が表面化してくるなど不安材料も顕著になってきました。下期後半からは中国向け中古車価格の低下傾向も散見されるなど右肩上がりが続いていた中古市場において変化の兆候も出てきました。

海外の建設機械市場においては、サブプライムローン問題に起因する北米市場の低迷は長期化の様相を強めています。欧州市場は米国に比べ比較的安定しているものの、サブプライムローン問題の波及や原油高、原材料・食料品の高騰などインフレの兆候などもあり、景気減速の兆候も散見されるようになってきました。

しかし、依然急拡大している中国市場、サブプライムローン問題の影響が比較的少なく需要旺盛な東南アジア市場、および成長著しい新興国市場により、総需要は引き続き拡大しました。

コベルコ建機グループは、このような事業環境の下、「中期経営計画(2006～2008年度)」の中間年度として、『変化に強い事業体の構築』へ向けて諸施策に取り組みました。

特に世界の顧客に対する供給責任を果たす為、国内生産工場の能力アップ、中国生産拠点の拡充強化、中国ミニショベル合弁会社設立、タイでの一貫生産工場建設に着手、など国内外の更なる増産投資を積極的に行ない、生産体制を整えました。

これらの増産体制整備に取り組んだ結果、成長著しい中国市場を筆頭に、国内・海外で販売台数を大きく伸ばすことができました。また、排ガス第3次規制に対応し、かつ大幅な燃費低減を達成した最新モデルも世界各国のマーケットで高く評価されており、販売台数拡大に大きく貢献しました。

これらの結果、2008年3月期(2007年4月～2008年3月)の業績は、以下の通りとなりました。連結ベースで、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全ての項目で過去最高を更新しました。

<2007年度通期の実績>

{単位:百万円、()内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	当期(2007年度)	281,751 (+20.0%)	14,420 (+59.7%)	15,587 (+42.7%)	7,754 (+40.6%)
	前期(2006年度)	234,727	9,027	10,916	5,513

連結の売上高は、国内事業が1,165億円(前年度比 +8.4%)、海外事業が1,653億円(同 +29.9%)で、全体としては2,818億円(同 +20.0%)となりました。

連結売上高の海外比率は58.7%となり、連結で海外の売上比率が増加しました。

また、CSR(企業の社会的責任)活動にも積極的に取り組み、2007年11月には今まで取り組んできた活動を、『社会環境報告書』に取り纏め、発行いたしました。また、08年2月には東京都品川区から『環境大賞』を受賞しました。

【2007年度の事業別状況】

■ 国内事業

国内向けでは、堅調な民間設備投資や、ストック調整の進展に伴う更新需要の増加などにより、重機ショベルの新車総需要の伸び率は低下したものの順調に増加しました。一方、ミニショベルの新車総需要は建築確認の厳格化の影響などにより前年度比で微減となりました。

当社は、第3次規制に適合した油圧ショベル「SK225SR/235SRD」、45t級「SK460/480D」に加え、中・大型ホイールローダー「LK-Zシリーズ」のフルモデルチェンジ、新型ミニショベル「ビートル」シリーズの一斉モデルチェンジなどを行い、相次いで国内外の市場へ投入してまいりました。市場投入車は、低燃費・高作業能力で高い評価を得るとともに、昨年より搭載を始めた当社独自の最新技術「INDR」システムによる極低騒音機能も高い評価を得る事が出来ました。

その結果、重機ショベルでは総需の伸びを上回る販売増加率を達成し、ミニショベルにおいては、2006年4月に開設した岐阜県・大垣事業所の生産体制も軌道にのり総需が減少する中で二桁の販売増加率を達成致しました。1月からは販売価格の是正にも注力いたしました。

■ 中国事業

需要が当初予想を上回るペースで急拡大している中国市場においては、中国第1生産工場「成都神鋼建設機械有限公司」(四川省成都市)および中国第2生産工場「杭州神鋼建設機械有限公司」(浙江省杭州市)の2拠点生産体制が順調に機能した結果、内陸部と沿海部それぞれの需要の伸びをとらえて、過去最高の現地生産・販売台数を達成することができました。

特に、重機ショベルにおいては第3次排ガス規制に対応した新型機が、折からの燃料高騰の影響から、低燃費・高作業効率の特性に評価は高まり、大幅な販売台数増加を達成しました。

■ 海外事業(中国事業を除く)

海外においてはCNHとのグローバルアライアンスに基づき、①当社の主担当地域であるAPACエリアを中心とした事業展開、②欧米におけるCNHとの合弁事業の更なる強化、に取り組みました。

APACエリアのうち、東南アジア地域においては、インドネシアやマレーシアではパームプランテーション向け等の需要が拡大し、順調に推移しました。

東南アジア地区では、タイに1996年に、『Thai Kobelco Construction Machinery Ltd.』(タイ コベルコ コンストラクション マシナリー)を設立し、ショベルの製缶部品を製造してきましたが、東南アジアエリアの事業強化策として、昨年8月に意思決定し建設を進めてきたタイの第二工場となる油圧ショベル一貫生産工場が、計画通り完成し、本年4月に完成機第一号機を出荷しました。本年7月には本格生産を開始致します。

また、成長著しいインド市場においては、合弁販売会社『KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT.LTD.』(コベルコ コンストラクション イクイメント インディア) が07年から営業活動をスタートし、販売流通網をゼロから立ち上げつつ、まずは順調な滑り出に成功しました。

CNHとの合弁事業では、欧・米の排出ガス第3次規制に対応した新モデルの技術供与を順次進めるとともに、欧州や、インフラ整備・資源開発で急成長しているロシアや中東など新興国市場向けへのOEM供給を伸ばしました。

【今後の重点課題と2008年度の見通し】

08年度は、成長著しい中国市場において、継続的な成長を予想していますが、インフレや景気過熱などの不安要素も注視していく必要があります。東南アジア諸国については、サブプライム問題の影響が比較的少なく、安定的な成長を期待しています。

北米市場は、住宅投資減少に加え、インフレ、景気後退懸念もあり、引き続き低調に推移すると思われる。欧州市場は底堅いと予想していますが、食品、原材料の値上げによるインフレ懸念、個人消費の減退などによる景況悪化の可能性もあり予断を許さない状況にあります。インフラ整備や資源開発などで需要が拡大しているBRICsなど新興国市場の力強い成長は今後も期待され、世界の建機需要は、不安要素もあるものの、堅調に推移すると見込まれます。

世界的な需要拡大が続く中、今こそ「ものづくり力」を強化し、伸びゆくマーケットに対して、質・量でタイムリーに対応できる体制づくりを行なってまいります。

そこで2008年度、コベルコ建機グループにおいては、中期経営計画(2006～2008年度)の最終年度として、『グローバルコベルコ』、『変化に強い事業体の構築』を目指し、以下の方針と重点課題に取り組みます。

- グローバル生産体制への取り組み
 - 広島・大垣 両事業所の“世界のマザー工場”としての「ものづくり力」の向上を計りつつ、タイ工場の順調な立ち上げ、中国生産拠点の整備と品質の維持向上を行なう
- コストアップへの適切な対応
 - 調達力強化による供給の安定化を図りつつ、押し寄せるコストアップに柔軟に対応
- 市場の変化に対する柔軟で迅速な対応
- 更なるコンプライアンスの遵守
- 次期排ガス規制に対応した新モデルの開発
- インド、インドネシアなど東南アジアマーケットの販売拠点の整備、拡充
- CNHとの連携強化、新興国市場も含めたマーケットの拡充

<2008年度通期の見通し>

{単位:百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	324,200 (+15.1%)	15,800 (+9.6%)	14,900 (▲4.4%)	7,600 (▲1.9%)

2008年度における為替レート前提：1米ドル=105円、1ユーロ=160円

* 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

■会社概要

社名	コベルコ建機株式会社
英社名	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.
創立	1999年10月1日
本社所在地	東京本社:東京都品川区東五反田2-17-1 (代表TEL:03-5789-2111)
資本金	160億円 (株)神戸製鋼所 80%、CNHグループ 20%
代表取締役	島田 博夫(しまだ ひろお)
事業内容	建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
ホームページ	http://www.kobelco-kenki.co.jp

平成20年 5月12日

平成20年3月期 決算業績概要

会社名 コベルコ建機株式会社
 代表者 代表取締役社長 島田 博夫
 問合せ先責任者 理事 企画管理部長 三木 健 TEL: 03(5789)2111
 親会社名 株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率:80%)
 CNH Global N.V. (当社株式の保有比率:20%)

1. 平成20年3月期の連結業績(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期	281,751	14,420	15,587	7,754
19年3月期	234,727	9,027	10,916	5,513
	一株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	%	%	%
20年3月期	24 23	13.4	6.7	5.1
19年3月期	17 22	11.1	5.2	3.8

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期	232,340	63,026	24.7	196 95
19年3月期	210,185	55,318	23.5	172 86

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期	7,334	△ 13,744	4,410	20,880
19年3月期	9,151	△ 4,703	6,360	22,716

2. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通 期	324,200	15,800	14,900	7,600